# Poincaré-Verdier 双対性

## 大柴寿浩

### はじめに

X,Y を局所コンパクト空間とし, $f\colon Y\to X$  を連続写像とする.A を大域次元が有限な可換環とする. $F\in \mathsf{D}^+(A_X),G\in \mathsf{D}^+(A_Y)$  とする.

 $Rf_!: D^+(A_Y) \to D^+(A_X)$  の右随伴関手  $f^!: D^+(A_X) \to D^+(A_Y)$  を構成するのが目標.

## 1 例

随伴を仮定した場合,層を具体的に設定するとどのような結果が従うか見てみる.  $X=\{\mathrm{pt}\},$   $F=A_{\{\mathrm{pt}\}},$   $G=A_Y$  のとき,

$$RHom_{A_X}(Ra_{Y!}A_Y, A) = RHom_{A_Y}(A_Y, a_Y^! A)$$

$$= R\Gamma(Y; R\mathcal{H}om_{A_Y}(A_Y, a_Y^! A))$$

$$= R\Gamma(Y; a_Y^! A)$$

である.  $\omega_Y$ :  $a_Y^!$  A とおく. 開集合  $U \subset Y$  に対し,

$$R\Gamma(U; \omega_Y) \cong R\Gamma(U; R\mathscr{H}om_A(A_U, a_Y^! A))$$
  
 $\cong RHom_{A_U}(A_U, A)$ 

なので,

$$\operatorname{RHom}_{A_U}(A_U, a_Y^! A) \cong \operatorname{RHom}_A(\operatorname{R}\Gamma_c(Y; A_U), A)$$
$$\cong \operatorname{RHom}_A(\operatorname{R}\Gamma_c(U; A_U), A).$$

ここで,Uが $\mathbf{R}^n$ と同相であるとすると,

$$R\Gamma_c(U; A_U) \cong A[-n]$$

したがって,

$$\cong \operatorname{RHom}_A(\operatorname{R}\Gamma_c(U; A_U), A) \cong A[n]$$

である. つまり,  $\omega_Y = a_Y^! A$  は

$$H^k(\omega_Y) = egin{cases} 0 & (k 
eq -n) \\ \mathrm{rank} = 1 & \mathcal{O}$$
局所定数層  $(k = -n)$ 

#### 2 構成

### 2.1 構成

X,Y を局所コンパクト空間とし、 $f:Y\to X$  を連続写像とする。A を大域次元が有限な可換環 とする.  $F \in D^+(A_X), G \in D^+(A_Y)$  とする.

 $Rf_!: D^+(A_Y) \to D^+(A_X)$  の右随伴関手  $f^!: D^+(A_X) \to D^+(A_Y)$  を構成する. まず、開集合  $V \subset Y$  に対し、 $f^!F$  の V 上の切断に関する条件を見てみる.

$$R\Gamma(V; f^!F) = RHom_{A_Y}(A_V, f^!F) = RHom_{A_X}(R f_!A_V, F)$$

となることから,  $f^!F$  は  $V \mapsto \mathrm{RHom}_{A_X}(\mathrm{R}\,f_!A_V,F)$  という対応でなければならない.  $\mathrm{R}\,f_!$  を計 算するには c 柔軟分解  $A_V \sim K$  を取ればよく, さらに F が入射的であれば,

$$\operatorname{RHom}_{A_X}(\operatorname{R} f_! A_V, F) = \operatorname{Hom}_{A_X}(f_! K_V, F)$$

となって, 結局

$$R\Gamma(V; f^!F) = \operatorname{Hom}_{A_X}(f_!K_V, F)$$

とできる.

## ■ f に関する仮定

定義 2.1. Y 上の層 G が f 柔軟であるとは、各点  $x \in X$  に対し、 $G|_{f^{-1}(x)}$  が c 柔軟であること をいう.

G が f 柔軟であることと、任意の開部分集合  $V \subset Y$  と  $i \neq 0$  に対し、 $\mathbf{R}^{j}$   $f_{i}G_{V} = 0$  となること と同値である.

次を仮定する.

$$f_! \colon \operatorname{Mod}(\mathbf{Z}_Y) \to \operatorname{Mod}(\mathbf{Z}_X)$$
 のコホモロジー次元は有限である. (2.1)

つまり、整数  $r \ge 0$  で、全ての j > r に対し  $\mathbf{R}^j f_! = 0$  となるものが存在する. (2.1) は次の条件 と同値である.

$$\begin{cases} \text{任意の} \ G \in \text{Sh}(Y) \ \text{に対し, 完全列} \\ 0 \to G \to G^0 \to \cdots \to G^r \to 0 \\ \text{で, どの} \ G^j \text{も } f \text{ 柔軟であるものが存在する.} \end{cases} \tag{2.2}$$
 
$$\begin{cases} \text{完全列} \ G^0 \to \cdots \to G^r \to 0 \\ \text{において, } j < r \ \text{に対し} \ G^j \ \text{が } f \text{ 柔軟ならば,} \\ G^r \ \text{が } f \text{ 柔軟となる.} \end{cases}$$

$$\begin{cases} 完全列 G^0 \to \cdots \to G^r \to 0 \\ において, j < r に対し G^j が f 柔軟ならば, \\ G^r が f 柔軟となる. \end{cases}$$
 (2.3)

 $f_!$  のコホモロジー次元が $\leq r$  となるのは、任意の $x \in X$  に対し、 $\Gamma_c(f^{-1}(x);\cdot)$  のコホモロジー次 元が $\leq r$ となるときである。実際,  $f_{!}|_{f^{-1}(x)}F = \Gamma_{c}(f^{-1}(x);F) = 0$ となるので.

### ■構成 以上の仮定は,

$$R\Gamma(V; f^!F) = \operatorname{Hom}_{A_X}(f_!K_V, F)$$

の構成をするためだった。  $f_!K_V$  の分解をしたくて,その長さが有限になるという仮定である. さて,K を  $\mathbf{Z}_Y$  加群,F を  $A_X$  加群とする.このとき,A 加群の前層  $f_K^!F$  を次で定める.  $V\in \mathsf{Open}(Y)$  に対し,

$$(f_K^!F)(V) := \operatorname{Hom}_{A_X} \left( f_! \left( A_Y \underset{\mathbf{Z}_Y}{\otimes} K_V \right), F \right)$$

とする. 制限射は  $K_{V'} \rightarrow K_V$  から引き起こされるもの.

補題 2.2. K を平坦かつ f 柔軟な  $\mathbf{Z}_{Y}$  加群とする.

- (i) Y 上の任意の層 G に対し  $G \otimes_{\mathbf{Z}_{V}} K$  は f 柔軟である.
- (ii)  $G \mapsto f_!(G \otimes_{\mathbf{Z}_Y} K)$  は  $\operatorname{Mod}(\mathbf{Z}_Y)$  から  $\operatorname{Mod}(\mathbf{Z}_X)$  への完全関手である.

証明. (i) Y 上の任意の層 G に対し, [KS90, Prop.2.4.12] の証明から, 分解

$$\rightarrow G^{-r} \rightarrow \cdots \rightarrow G^0 \rightarrow G \rightarrow 0$$

で、各 $G^j$  が $\mathbf{Z}_V$  の直和となるものが存在する.

復習:  $G \in \operatorname{Mod}(\mathbf{Z}_Y)$  に対し,

$$\mathfrak{S} \coloneqq \{(V,s); V \in \mathsf{Open}(Y), s \in \Gamma(V;G)\}$$

とし、各  $(V,s) \in \mathfrak{S}$  に対し、 $\mathbf{Z}_Y(V,s) \coloneqq \mathbf{Z}_V \in \operatorname{Mod}(\mathbf{Z}_Y)$  とおき、 $P \coloneqq \bigoplus_{(V,s) \in \mathfrak{S}} \mathbf{Z}_Y(V,s)$  とおく、 $\operatorname{Hom}_{\mathbf{Z}_Y}(\mathbf{Z}_V,G) \cong \Gamma(V;G)$  より、各  $\varphi \colon \mathbf{Z}_V \to G$  に対し、 $s \in G(V)$  がただ一つある。これにより全射  $P \twoheadrightarrow G$  が得られる。各  $y \in Y$  に対し、 $P_y = \bigoplus_{(V,s),y \in V} \mathbf{Z}$  である。 (復習終わり)

 $\operatorname{Ker}(P \to G)$  に対し、同様に  $\mathbf{Z}_V$  の直和からの全射が構成できる. これを繰り返して、分解

$$\rightarrow G^{-r} \rightarrow \cdots \rightarrow G^0 \rightarrow G \rightarrow 0$$

で、 $\mathbf{Z}_V$  の直和となるものが得られる。よって、どの j についても、 $G^j \otimes_{\mathbf{Z}_Y} K$  は f 柔軟である。 実際、 $(\bigoplus \mathbf{Z}_V) \otimes_{\mathbf{Z}_Y} K \cong \bigoplus (\mathbf{Z}_V \otimes_{\mathbf{Z}_Y} K) \cong \bigoplus K_V$  であり、茎ごとに  $\mathbf{c}$  柔軟なので.この分解に $-\otimes_{\mathbf{Z}_Y} K$  をあてた

$$\rightarrow G^{-r} \otimes_{\mathbf{Z}_{V}} K \rightarrow \cdots \rightarrow G^{0} \otimes_{\mathbf{Z}_{V}} K \rightarrow G \otimes_{\mathbf{Z}_{V}} K \rightarrow 0$$

は K が平坦なので完全である。したがって,r を十分大きくとれば, $f_!$  のコホモロジー次元が有限であるという仮定から,(2.3) を用いて, $G\otimes_{\mathbf{Z}_Y}K$  も f 柔軟であることが従う。

(ii) Sh(Y) の完全列

$$0 \to G_1 \to G_2 \to G_3 \to 0$$

に対し,

$$0 \to G_1 \otimes_{\mathbf{Z}_Y} K \to G_2 \otimes_{\mathbf{Z}_Y} K \to G_3 \otimes_{\mathbf{Z}_Y} K \to 0$$

は f 柔軟である. いま,

$$0 \to f_!(G_1 \otimes_{\mathbf{Z}_Y} K) \to f_!(G_2 \otimes_{\mathbf{Z}_Y} K) \to f_!(G_3 \otimes_{\mathbf{Z}_Y} K) \to 0$$

のストーク

$$0 \to (f_!(G_1 \otimes_{\mathbf{Z}_Y} K))_x \to (f_!(G_2 \otimes_{\mathbf{Z}_Y} K))_x \to (f_!(G_3 \otimes_{\mathbf{Z}_Y} K))_x \to 0 \tag{(a)}$$

を考えると、これらは、 $W = f^{-1}(x)$ とおくとき

$$0 \to \Gamma_c(W; (G_1 \underset{\mathbf{Z}_Y}{\otimes} K)|_W) \to \Gamma_c(W; (G_2 \underset{\mathbf{Z}_Y}{\otimes} K)|_W) \to \Gamma_c(W; (G_3 \underset{\mathbf{Z}_Y}{\otimes} K)|_W) \to 0$$

である.  $G_j \otimes K$  たちは f 柔軟なので,これらは W で c 柔軟であり,  $f_!$  が完全であることから,  $\mathbf{z}_Y$  ( $\mathfrak{b}$ ) は完全である.よって,もとの層の系列も完全である.

補題  $oldsymbol{2.3.}$  K を平坦かつ f 柔軟な  $oldsymbol{\mathbf{Z}}_Y$  加群とし,F を  $A_X$  入射加群とする.

- (i) 前層  $f_K^! F$  は層である.
- (ii)  $G \in \operatorname{Mod}(A_Y)$  に関して関手的な自然同型

$$\operatorname{Hom}_{A_X}(f_!(G \otimes_{\mathbf{Z}_Y} K), F) \xrightarrow{\sim} \operatorname{Hom}_{A_Y}(G, f_K^! F)$$

が存在する. また,  $f_K^! F$  は  $A_Y$  入射加群である.

証明. (i)  $-\otimes_{\mathbf{Z}_Y} K$  をたんに  $-\otimes K$  で表す. V を Y の開集合とし, $(V_j)_j$  を V の開被覆とする.

$$\bigoplus_{j,k} A_{V_j \cap V_k} \to \bigoplus_j A_{V_j} \to A_V \to 0$$

は完全である.  $^{*1}$ これに完全関手  $f_{!}(-\otimes K)$  をあてて完全列

$$\bigoplus_{j,k} f_!(A_{V_j \cap V_k} \otimes K) \to \bigoplus_j f_!(A_{V_j} \otimes K) \to f_!(A_V \otimes K) \to 0$$

を得る. さらに左完全な反変関手  $\operatorname{Hom}_{A_X}(-,F)$  をあてて、完全列

$$0 \to \operatorname{Hom}_{A_X}(f_!(A_V \otimes K), F) \to \operatorname{Hom}_{A_X}(\bigoplus_j f_!(A_{V_j} \otimes K), F) \to \operatorname{Hom}_{A_X}(\bigoplus_{j,k} f_!(A_{V_j \cap V_k} \otimes K), F)$$

を得る. これは極限を交換すれば

$$0 \to f_K^! F(V) \to \prod_j f_K^! F(V_j) \to \prod_{j,k} f_K^! F(V_j \cap V_k)$$

 $<sup>^{*1}</sup>$ 開集合は小さい方から大きい方へ随伴射が生える.  $A_{jk}\to A_j, A_k$  はそれぞれ  $s_{jk}\mapsto s_{jk}$  と  $s_{jk}\mapsto -s_{jk}$  で定める.  $A_{V_j}$  の台は V に含まれるので,各切断の和の台も被覆の条件から V に含まれるので全射の方も成り立つ.

であり、 $f_K^! F$  が層であることが示された.

(ii) アーベル群の射

$$\alpha(G) \colon \operatorname{Hom}_{A_X}(f_!(G \otimes K), F) \to \operatorname{Hom}_{A_Y}(G, f_K^! F)$$

を定める.  $\phi \in \operatorname{Hom}_{A_X}(f_!(G \otimes K), F)$  とする.  $V \in \operatorname{Open}(Y)$  に対し、次  $A_X$  加群の射がある.

$$G(V) \otimes f_!(A_Y \otimes K_V) \xrightarrow{?} f_!(G \otimes K_V)$$

$$\xrightarrow{\text{adj.}} f_!(G \otimes K)$$

$$\xrightarrow{\rho} F.$$

よって, $\operatorname{Hom}$ ・テンソル随伴から,G(V) から  $f_K^!F(V)=\operatorname{Hom}(f_!(A_Y\otimes K_V),F)$  への射を得る. この射は  $V\in\operatorname{Open}(Y)$  について関手的.よって, $\alpha(G)(\phi)\in\operatorname{Hom}_{A_Y}(G,f_K^!F)$ .

 $\alpha(G)$  が同型であることを

- (a)  $G = A_V$  の場合,
- (b)  $G = \bigoplus_i A_{V_i}$  の場合,
- (c) 一般の場合
- の3段階で示す.
  - (a)  $G = A_V$  のとき,

$$\operatorname{Hom}_{A_X}(f_!(G \otimes K), F) \cong \operatorname{Hom}_{A_X}(f_!(A_V \otimes K), F)$$

$$\cong (f_K^! F)(V)$$

$$\cong \operatorname{Hom}_{A_Y}(A_V, f_K^! F)$$

$$= \operatorname{Hom}_{A_Y}(G, f_K^! F)$$

なので同型.

- (b)  $G = \bigoplus_i A_{V_i}$  のとき、 $\alpha(G) = \prod_i \alpha(A_{V_i})$  なので、(a) の結果からこれも同型.
- (c) G が一般のとき, [KS90, Prop.2.4.12] より, 完全列

$$0 \to G'' \to G' \to G \to 0$$

で、 $G'\cong \bigoplus_j A_{V_j}$  となるものがある. (G'' は全射  $G'\twoheadrightarrow G$  の核として得られる. )よって、(b) より  $\alpha(G')$  は同型. 次の可換図式を考える.

$$0 \longrightarrow \operatorname{Hom}(f_{!}(G \otimes K), F) \longrightarrow \operatorname{Hom}(f_{!}(G' \otimes K), F) \longrightarrow \operatorname{Hom}(f_{!}(G'' \otimes K), F)$$

$$\downarrow^{\alpha(G)} \qquad \qquad \downarrow^{\alpha(G')} \qquad \qquad \downarrow^{\alpha(G'')}$$

$$0 \longrightarrow \operatorname{Hom}(G, f_{K}^{!}F) \longrightarrow \operatorname{Hom}(G', f_{K}^{!}F) \longrightarrow \operatorname{Hom}(G'', f_{K}^{!}F).$$

補題 2.2 より,2 つの行はどちらも完全. $\alpha(G')$  は同型なので,左の可換性から  $\alpha(G)$  は単射.同じことを  $\alpha(G'')$  にやれば  $\alpha(G'')$  は単射.よって,五項補題から  $\alpha(G)$  は同型.(左に 0 の同型を追加する.)

 $\operatorname{Hom}_{A_Y}(-,f_K^!F)$  が完全関手であることから, $f_K^!F$  が入射加群であることもわかる.  $\Box$   $f_!$  のコホモロジー次元を  $\leq r$  とする.

補題 2.4.  $\mathbf{Z}_Y$  に対し、分解  $0 \to \mathbf{Z}_Y \to K^0 \to \cdots \to K^r \to 0$  で、各  $K^j$  が平坦かつ f 柔軟な  $\mathbf{Z}_Y$  加群となるものが存在する.

証明. 入射分解と同じように分解を構成する.

入射分解の復習  $\hat{Y}\coloneqq (Y,P(Y))$  を Y に離散位相を入れた空間とし, $p\colon \hat{Y}\to Y$  を自然な連続写像とする.F を  $\mathbf{Z}_Y$  加群とする. $p^{-1}F\in \mathrm{Mod}(\mathbf{Z}_{\hat{Y}})$  に対し,入射加群  $I\in \mathrm{Mod}(\mathbf{Z}_{\hat{Y}})$  への単射

$$0 \to p^{-1}F \to I$$

があったとする.この I と単射に対し,左完全関手  $p_*$  を適用すると, $0 \to F \to p_*I$  は  $\operatorname{Mod}(\mathbf{Z}_Y)$  における完全列である.(ここに  $p_*p^{-1}F = (\operatorname{id}_Y)_*(\operatorname{id}_Y)^{-1} = F$  である.) $p_*$  は入射的対象を保つので, $p_*I$  は入射加群である.

最初の完全列を構成する.  $F'\in \mathrm{Mod}(\mathbf{Z}_{\hat{Y}})$  とすると, 各点  $y\in Y$  に対し,  $\mathrm{Mod}(\mathbf{Z}_{\hat{Y},y})=\mathrm{Mod}(\mathbf{Z})$  における完全列

$$0 \to F_y' \to I_y$$

が存在する.  $(\operatorname{Mod}(\mathbf{Z})$  は充分入射的対象を持つのだった. ) 単射の積は単射なので, Y 全体で積を取った

$$0 \to \prod_{y \in Y} F_y' \to \prod_{y \in Y} I_y$$

も完全である. したがって, $\operatorname{Mod}(\mathbf{Z}_{\hat{Y}})$  での入射加群  $I=\prod_{y\in Y}I_y$  への単射  $F\to I$  が得られた. この操作を余核に対して繰り返し行えば, $F\in\operatorname{Mod}(\mathbf{Z}_Y)$  の入射分解が得られる.

(復習終わり)

 $\mathbf{Z}_Y$  の入射分解を

$$0 \to \mathbf{Z}_Y \to K^0 \to \cdots \to K^r \to 0$$

とする. 入射加群は c 柔軟であり,したがって f 柔軟である.したがって,この分解は c 柔軟分解である.

各項の平坦性を見る.

# 参考文献

[KS90] Masaki Kashiwara, Pierre Schapira, *Sheaves on Manifolds*, Grundlehren der Mathematischen Wissenschaften, 292, Springer, 1990.